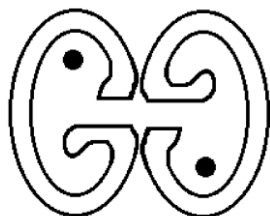


日本双生児研究学会ニュースレター

《第65号》

Newsletter of Japan Society for Twin Studies

2018年12月発行



目次

- ・ 日本双生児研究学会第33回学術講演会プログラム 2019年1月12日(土)開催 2
- ・ 第38回双生児研究会報告 6
「ふたごのきょうだい関係と社会性の発達」野寄茉莉(弘前大学教育学部講師)
- ・ 幹事会報告 8
- ・ 会員用メーリングリスト運用のご案内 9
- ・ 特集『双生児の作品から…』 10
- ・ 学会事務局からのお知らせ 11

編集後記

会員募集のお知らせ

入会を希望される方は郵便振替用紙に口座番号(00910-2-253840)、加入者名(日本双生児研究学会)をご記入の上、年会費(3,000円)をご送金下さい。また、通信欄に所属・所属の住所・電話番号・FAX番号・E-mail等をお書き添え下さい。

〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1

石川県立看護大学 健康科学講座

日本双生児研究学会事務局(大木秀一)

学会ホームページアドレス <https://jsts.jp.net/>

第 33 回日本双生児研究学会学術講演会 プログラム

日時：平成 31 年 1 月 12 日（土）10 時 00 分～（9 時 30 分開場）

テーマ：国際共同研究からみた双生児研究の未来

大会長：横山美江教授（大阪市立大学医学部看護学科・看護学研究院）

開催場所：大阪市立大学医学部看護学科・看護学研究院 多目的ホール（5 階）

住所：〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町 1-5-17

JR・地下鉄「天王寺駅」、近鉄「大阪阿部野橋」より西へ徒歩約 10 分



阿倍野キャンパス

〒545-8585
大阪市阿倍野区旭町1-4-3

- 1 医学部学舎
- 2 附属病院
- 3 医学部南館
- 4 医学情報センター(6F)
- 5 医療研修センター(8F)
- 6 学術情報総合センター-医学分館(8~9F)
- 7 医学部看護学科学舎



参加資格および参加費

- 1) 日本双生児研究学会会員の他、非会員、学生も参加できます。
- 2) 参加費 会員 2000 円、ふたごご本人とそのご家族 500 円(資料代として 1 家族あたり)
学生無料(学生証提示) (当日徴収させていただきます)
懇親会費:2500 円 (当日徴収させていただきます) 開場近くのレストランを予定

◆問い合わせ先

TEL 06-6645-3514 E-mail: ogata.yasue@nurs.osaka-cu.ac.jp (緒方)

～午前の部～

1. 教育講演 10時00分～11時30分

座長 横山美江先生 大阪市立大学

タイトル「The global obesity epidemic in the light of twin research」

Karri Silventoinen, University of Helsinki

2. 昼休憩・幹事会 11時30分～13時00分

3. 総会 13時00分～13時30分

～午後の部～

4. 一般演題 (口演7分：質疑応答3分)

第一部：13時30分～14時30分 座長：渡邊幹夫先生（大阪大学）

演題1 成人一卵性双生児を対象とした腸内細菌叢と生活習慣との関連

富澤理恵¹・松本夏子²・朴鐘旭³・本多智佳¹・細見晃司³・川島和³・夏目やよい³・

赤田加奈子¹・乾富士男¹・大阪ツインリサーチグループ¹・水口賢司³・國澤純³

¹大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

²大阪大学大学院医学系研究科 ³国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所

演題2 日本とハンガリーの成人双生児における骨密度の遺伝寄与率

佐伯壮一朗^{1,2,3}・本多智佳⁴・南谷かおり³・田畑知沙³・中谷大作³・富澤理恵⁴・

大阪ツインリサーチグループ⁴・Ádám L. Jermendy⁷・György Jermendy⁸・Béla Merkely⁷・

Pál Maurovich-Horvat⁷・Ádám Domonkos Tárnoki^{4,6}・Dávid László Tárnoki^{4,6}・酒井規夫^{4,5}・

中田研^{2,3}

¹大阪大学医学部医学科 ²大阪大学大学院医学系研究科 健康・スポーツ科学講座

³大阪大学医学部附属病院国際医療センター ⁴大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

⁵大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生命育成看護科学講座 成育小児科学

⁶Department of Radiology, Semmelweis University

⁷MTA-SE Cardiovascular Imaging Research Group, Heart and Vascular Center, Semmelweis University

⁸Department of Radiology, Leiden University Medical Center (Lamb)

演題3 視力と目の乾き感の遺伝と環境

安藤寿康¹・鳥居秀成²・坪田一男²

¹慶應義塾大学文学部 ²慶應義塾大学医学部

演題4 霊長類のふたご育児にみる親の負担：チンパンジーとベニガオザルの動画像から

松葉敬文¹・川上文人²・豊田有³

¹岐阜聖徳学園大学経済情報学部 ²中部大学人文学部 ³京都大学霊長類研究所

演題 5 全国で双胎が共に出生した児の体重差と卵性別乳児死亡率の関係,1995～2008 年

今泉洋子

大阪大学大学院医学系研究科ツインリサーチセンター

演題 6 2 値順序尺度の ACE モデルにおける母数推定の変動-サンプルサイズの相違について-

鈴木国威

大阪人間科学大学医療心理学科

5. シンポジウム 14 時 45 分～15 時 45 分

テーマ「双子家庭における環境と遺伝」

座長 加藤 則子 先生 (十文字学園女子大学)

演者

- 1) 家庭内の文化伝達—純粹に「環境」といえるか?
慶応義塾大学 安藤寿康先生
- 2) 双生児間の関係性と母親のストレスに関する研究
関西福祉科学大学 福田早苗先生
- 3) 親のソーシャル・サポートと子どもの抑うつにおける遺伝と環境
千葉大学 田中麻未先生 京都大学 高橋雄介先生

6. 一般演題 (口演 7 分: 質疑応答 3 分)

第二部: 15 時 45 分～16 時 45 分 座長: 廣瀬 英子 先生 (上智大学)

演題 1 『多胎家庭白書 2』に見るふたご妊娠・出産の現状と母親の心情

糸井川誠子¹・林真由美¹・加納真奈美¹・野村万里子¹・奥山泰子¹・尾辻直子¹・佐藤真代¹・
河村里沙¹・杉原美由紀¹・豊永雅美¹・水本祐美子¹・和田眞理¹・服部律子²・越智祐子³

¹ 特定非営利活動法人ぎふ多胎ネット ² 岐阜県立看護大学 ³ 元名古屋学院大学

演題 2 多胎育児ピアサポーターから見た家庭訪問の効果と課題

鈴木朋子¹・太田ひろみ¹・佐々木裕子¹・山内亮子¹・場家美沙紀¹

¹ 杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻(多摩多胎ネット)

演題 3 多胎育児家庭の家庭訪問型支援ニーズ

～訪問支援者・訪問支援の場所・訪問支援者に求める能力～

大高恵美^{1, 13}・田中輝子^{2, 13}・糸井川誠子^{3, 13}・佐藤喜美子¹³・志村恵^{4, 13}・布施晴美^{5, 13}・
松葉敬文^{6, 13}・服部律子^{7, 13}・落合世津子^{8, 13}・天羽千恵子^{9, 13}・村井麻木^{10, 13}・大木秀一^{11, 13}・
大岸弘子^{9, 13}・玄田朋恵^{12, 13}

¹ 日本赤十字秋田看護大学 ² NPO 法人ホームスタート・ジャパン ³ NPO 法人ぎふ多胎ネット ⁴ 金沢大学

⁵ 十文字学園女子大学 ⁶ 岐阜聖徳学園大学 ⁷ 岐阜県立看護大学 ⁸ 大阪大学大学院ツインリサーチセンター

⁹ ひょうご多胎ネット ¹⁰ ツインズクラブ ¹¹ 石川県立看護大学 ¹² NPO 法人いしかわ多胎ネット

¹³ 一般社団法人日本多胎支援協会

演題4 育児ステージ別にみた多胎育児家庭を取り巻く環境

～データマイニングによる共起ネットワーク図を用いた分析～

松葉敬文^{1, 14}・田中輝子^{2, 14}・糸井川誠子^{3, 14}・佐藤喜美子¹⁴・志村恵^{5, 14}・布施晴美^{6, 14}・
大高恵美^{7, 14}・服部律子^{8, 14}・落合世津子^{9, 14}・天羽千恵子^{10, 14}・村井麻木^{11, 14}・大木秀一^{12, 14}・
大岸弘子^{10, 14}・玄田朋恵^{13, 14}

¹岐阜聖徳学園大学 ²NPO 法人ホームスタートジャパン ³NPO 法人ぎふ多胎ネット ⁵金沢大学

⁶十文字学園女子大学 ⁷日本赤十字秋田看護大学 ⁸岐阜県立看護大学

⁹大阪大学大学院ツインリサーチセンター ¹⁰ひょうご多胎ネット ¹¹ツインズクラブ ¹²石川県立看護大学

¹³いしかわ多胎ネット ¹⁴一般社団法人日本多胎支援協会

演題5 多胎児用母子健康手帳のニーズと有用性に関する質問紙調査の結果

松葉敬文^{1, 11}・金森聖美^{2, 8}・山岸和美^{3, 8}・糸井川誠子^{4, 8, 11}・高山ゆき子^{5, 8}・天羽千恵子^{6, 8, 11}・
中村由美子^{7, 8}・彦聖美^{8, 9}・大木秀一^{3, 8, 10, 11}

¹岐阜聖徳学園大学 ²ハッピーキッズ旭川支部 ³NPO 法人いしかわ多胎ネット ⁴NPO 法人ぎふ多胎ネット

⁵しずおか多胎ネット ⁶ひょうご多胎ネット ⁷双子・三つ子サークルグリーンピース ⁸ふたご手帖プロジェクト

⁹金城大学 ¹⁰石川県立看護大学 ¹¹一般社団法人日本多胎支援協会

演題6 多胎育児家庭への家庭訪問型支援の先進事例～面接調査から～

落合世津子^{1, 13}・田中輝子^{2, 13}・天羽千恵子^{3, 13}・糸井川誠子^{4, 13}・村井麻木^{5, 13}・布施晴美^{6, 13}・
松葉敬文^{7, 13}・玄田朋恵^{8, 13}・志村恵^{9, 13}・大高恵美^{10, 13}・服部律子^{11, 13}・佐藤喜美子¹³・
大岸弘子^{3, 13}・大木秀一^{12, 13}

¹大阪大学大学院ツインリサーチセンター ²NPO 法人ホームスタートジャパン ³ひょうご多胎ネット

⁴NPO 法人ぎふ多胎ネット ⁵ツインズクラブ ⁶十文字学園女子大学 ⁷岐阜聖徳学園大学 ⁸いしかわ多胎ネット

⁹金沢大学 ¹⁰日本赤十字秋田看護大学 ¹¹岐阜県立看護大学 ¹²石川県立看護大学

¹³一般社団法人日本多胎支援協会

懇親会 17時00分～18時00分

＜第 38 回双生児研究会 (2018 年 5 月 19 日 (土) 開催) 報告＞

ふたごのきょうだい関係と社会性の発達

(弘前大学教育学部 野寄 茉莉)

筆者は、慶應義塾大学首都圏ふたごプロジェクトの研究員として、10 年余り双生児の発達調査に携わってきた。一般的に、双生児のきょうだいは非常に強い独特の親密な関係を形成すると考えられており、双生児についての逸話は数多く存在する。しかしながら、実際に双生児の相互関係に関する実証的な研究は国際的に見ても非常に少ない。研究会では、双生児のきょうだい関係が社会性の発達にどのように影響するかを検討することを目的として、筆者らが実施した 2 つの研究の成果を報告した。以下にその概要を記す。

1. 幼児期のきょうだい関係は他者に対する行動にどのように影響するか—ふたごと年齢差のあるきょうだいの比較を通して

これまで、年齢差のあるきょうだいを対象とした研究から、幼児期のきょうだい関係の質が他者に対する向社会行動や敵対的な行動に影響を及ぼすことが明らかにされてきた。生まれた時から共に過ごす時間がとても長い双生児のきょうだいでは、年齢差のあるきょうだいと比較してどのような共通点・相違点があるのかについて検討した。

調査には、5 歳の同性双生児のきょうだいと 3 歳～9 歳の範囲に同性の 2 人の子どもがいる年齢差のあるきょうだいの両方にご協力いただいた。それぞれの保護者に質問紙調査を実施し、きょうだい関係(ポジティブさ・ネガティブさ)・他者に対する行動(向社会行動・攻撃行動・仲間関係の問題)を測定した。

一卵性双生児・二卵性双生児・年齢差のあるきょうだいの 3 つのグループに分けて、きょうだい関係が他者に対する行動に与える影響の方向性、影響力の大きさについてグループ間で違いがあるかどうか検討した。その結果、3 つのグループに共通して、きょうだい関係のポジティブさが強いほど向社会行動は増え、攻撃行動は減ること、また、きょうだい関係のネガティブさが強いほど向社会行動は減り、攻撃行動は増えることがわかった。その一方で、影響力については、双生児と年齢差のあるきょうだいで違いが見られた。きょうだい関係のポジティブさが向社会行動及び攻撃行動にあたる影響力の大きさは、双生児の方が年齢差のあるきょうだいよりも強かった。

さらに、仲間関係の問題については、影響の方向性に違いが見られた。一卵性双生児では、きょうだい関係のポジティブさが強いほど仲間関係の問題が増えるのに対して、二卵性双生児と年齢差のあるきょうだいでは、きょうだい関係のポジティブさが強いほど仲間関係の問題が減ることがわかった。

この研究から、幼児期の双生児のきょうだいが長い時間を共に過ごすことは、社会性の発達をより強く促すというプラスの側面と、きょうだい間の親密性が強いことで他者との良好な関係を築くことを難しくする場合があるというマイナスの側面を持っていることが示唆された。幼児期には、二人が別々な経験をする機会を持てるよう、周囲の働きかけがあるとよいだろう。また、そのような機会を作ることを可能にするためには、保護者を支える育児支援も重要だと言える。

2. 思春期のふたごのきょうだい関係・仲間関係は心の問題とどのように関連するか

思春期になると、子どもは同年代の仲間を家族よりも精神的な支えになる他者ととらえるようになることが指摘されている。これまでの研究から、子どもどうしの良好な関係が思春期における心の問題を軽減することが知られている。本研究では、思春期の双生児のきょうだい関係や仲間関係が心の問題とどのように関連しているのかについて検討した。

この調査には、小学5,6年生の双生児のペアにご協力いただいた。双生児本人に質問紙調査を実施し、きょうだい関係(ポジティブさ・ネガティブさ)・仲間関係(信頼・コミュニケーション・疎外感)・抑うつ傾向を測定した。

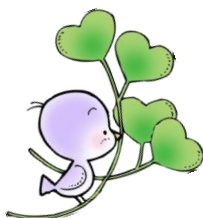
一卵性・同性二卵性・異性二卵性の3つのグループに分けて、思春期の双生児のきょうだい関係・仲間関係・抑うつ傾向にどのような特徴があるかについて検討した。きょうだい関係・仲間関係と抑うつ傾向の関連について調べた結果、3つのグループに共通して、きょうだい関係はポジティブさ・ネガティブさいずれも抑うつ傾向との関連はほとんど見られなかった。一方、仲間への信頼性が高いことと抑うつ傾向が低いこと、及び、仲間からの疎外感が強いことと抑うつ傾向が高いことには関連が見られた。

この研究から、双生児の思春期の心の問題には、きょうだい関係よりも仲間関係が強く関連していることが示唆された。きょうだい関係は、子ども—子ども間で築かれる最初の社会関係であり、他者との良好な関係を築く力を育む上で重要なことは間違いない。ただし、成長と共に、子どもの社会関係が拡大していく中で、双生児のきょうだい関係が持つ社会性の発達への影響力は、徐々に弱まっていくのかもしれない。

以上の2つの研究は、いずれもある1つの時点での調査に基づいた結果である。今後は、縦断的なデータに基づいて、ふたごのきょうだい関係が成長と共にどのように変化し、社会性の発達に長期的にどのような影響を及ぼすのかという視点で研究を発展させていきたい。

*研究1は、以下の論文で発表されている。

Mari Nozaki, Keiko K. Fujisawa, Juko Ando, & Toshikazu Hasegawa (2012). The Effect of Sibling Relationships on Adjustment among Japanese Twins Compared with Singletons. *Twin Research and Human Genetics*, 15, 727-736.



<幹事会報告>

日本双生児研究学会 2018 年第 2 回幹事会 議事録

日 時：2018 年 5 月 19 日（土）12:00～13:30

場 所：慶應義塾大学三田キャンパス南校舎 4 階 411 番教室

出席者：安藤寿康、廣瀬英子、本多智佳 野中浩一、志村恵、天羽千恵子、横山美江（アルファベット順）7 名。

欠席者：早川和生、福島昌子、加藤則子、大木秀一、菅原ますみ

報告・審議事項

1. 第 32 回学術講演会の開催報告：本多幹事より会計報告がなされた。
2. 第 33 回学術講演会の進捗状況について：横山幹事より、学会実施要綱の説明がなされた。2019 年 1 月 12 日（土）の予定であること、抄録の形式を統一すること、ニュースレターにその旨記載があることなどが報告された。時期が近づいたら ML で案内をするとよいということになった。
3. ニュースレターの発行について：廣瀬編集委員より、ニュースレター第 64 号を 4 月に発行した報告がなされた。次の 65 号は、2018 年 12 月中旬に発行・送付の予定となった。
4. メーリングリスト登録状況と今後の広報活動について：現在会員数 112 名のうち、72 名が登録していることが報告された。これからの新規入会については、自動的に ML に登録する旨、入会時に案内することとなった。ML への研究会、大会等の事業の案内に関する発信は、それぞれの事業担当が行うことを基本とすることとなった。
5. Web サイト掲載状況について
現在の掲載項目を資料にもとづき確認した。学会の沿革、歴代会長、歴代事務局、名誉会員については未掲載のため、今後の課題となった。
6. 日本双生児研究学会奨励賞の募集について：今年度の候補者の推薦がなされた。
7. 日本双生児研究学会名誉会員の推薦について：名誉会員規則に基づいて、今泉洋子先生、末原則幸先生、又吉國雄先生の推薦がなされた。
8. 第 34 回学術講演会について：候補となられた先生にご都合を伺うこととなった。
9. 第 39 回双生児研究会について：2018 年 11 月頃に行うことになった。候補となられた先生にこれから打診することとなった。研究会開催を会員増加につなげたいため、今後は、開催場所を関東と関西で 1 回ずつ行い、非学会員や著名な先生をお呼びすることも検討することになった。また、節目の年の学術講演会では、著名な先生にご講演いただくことも検討することになった。
10. 任期について：会長任期は 2 年（2017-2018）である。安藤会長に継続意向の確認を行うことができたため、次回総会で諮ることになった。幹事の任期は 3 年（2017-2019）で、選挙は 2019 年秋であることを確認した。事務局の任期は特に決まりがないことを確認し、任期を設定するかどうかを検討し、継続審議となった。
11. 次回の幹事会は、2018 年 11 月に企画中の第 39 回双生児研究会当日に行い、双生児研究会が開催されなければ、2019 年 1 月の学術講演会当日に開催することとなった。

以上

<日本双生児研究学会 会員用メーリングリストについて>

当学会事業のお知らせと、会員間の情報交換や交流にもご活用いただきたく、2017年度より会員用新メーリングリスト (jstsm1@googlegroups.com 以下 ML) を運用し、2018年11月1日現在、現会員の7割弱の方にメールアドレスをご登録いただいております。ご協力をありがとうございました。

登録がお済みでない方は、下記の手順に従いご登録くださいますようお願いいたします。

◎現会員の登録について

学会 HP の【お問い合わせフォーム】 (<https://jsts.jp.net/contact/>) から、「区分」は「その他」を選び、「お問い合わせ内容」に「ML登録希望」として、①お名前、②メールアドレス、③所属等の3点をお知らせください。追って担当者より「ML登録完了」のご連絡をいたします。

◎新入会員の登録について

新入会員については、「ML非登録」のお申し出がない限り入会申込と共に ML に登録しますので、連絡は不要です。ご入会後に担当者より「ML登録完了」のご連絡をいたします。

◎配信の停止・変更

配信の一時停止・再開やメールアドレスの変更などについても、上記【お問い合わせフォーム】からお知らせください。

◎利用上の注意

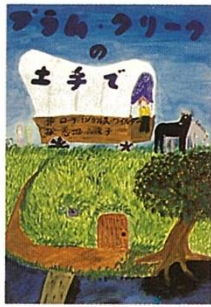
- ・MLでの発信・返信は、「送信者名」、「アドレス」、「本文」がML登録会員全体で共有されます。特に返信の場合はご注意ください。
- ・添付ファイルを制限していませんので、コンピュータウイルスに対しては各自で防衛してください。
- ・jstsm1@googlegroups.com からのメールを受信できるように設定していただければ、携帯アドレスでの登録も可能ですが、添付ファイルの容量制限等もありますので、PCアドレスでの登録をお勧めします。
- ・大学や職場のドメインを含むアドレスの場合、ウェブ投稿機能がドメイン管理者により無効にされていることがあります。ご自身の投稿が反映されない場合には、ドメイン管理者にご確認の上、別アドレスへの変更等をご検討ください。

双生児の作品から……

Ⅱ A児(兄または姉)



No 1 一卵性(女)



Ⅱ B児(弟または妹)



No 2 一卵性(男)



No 3 一卵性(女)



「ピバ! ツインズ」より
東京書籍 (1995/03)

東京大学教育学部附属中等教育学校
双生児研究委員会より

特集

東京大学教育学部附属中等教育学校の生徒たちの美術の授業で描いた作品です。昔も今も変わらぬ遺伝と環境のかかわり。
著書「双生児」日本放送出版協会 (1978/05)



<学会事務局からのお知らせ>

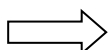
学会ホームページの常時 SSL 化を行いました。

それに伴い、URL アドレスが http から https に変更となりました。

(新アドレス) <https://jsts.jp.net/>

QR コードも新しくなりました。旧 URL アドレスにアクセスした場合でも自動的に新 URL へ転送されますが、ブックマークやお気に入り登録されている場合は、新 URL アドレスへの登録変更をお願いいたします。

学会ホームページの QR コード





編集後記



みなさまお元気でご活躍のことと存じます。この 65 号では、第 33 回学術講演会のご案内、第 38 回研究会のご報告を中心に編集いたしました。第 33 回学術講演会が例年より 2 週間早く開催されるため、例年より少し早い時期にお送りしています。今後、国際雑誌、国際学会などの抄録などをお寄せいただけますと幸いです。これまでの会員のみなさまのご協力に感謝しますとともに、今後ともどうぞ宜しく願い申し上げます。

編集委員：廣瀬英子（上智大学）・福島昌子（東京大学教育学部附属中学校）